

令和 4 年度

事業所名 : グループホームやすらぎ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人紫波会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒028-3307 紫波郡紫波町桜町字三本木46-1		
自己評価作成日	令和4年9月 日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この2年間は、外出や面会、地域との交流等に制限がありましたので、その分、環境整備やケアの見直し・質の向上、職員の意識改革に努めることで、入居者様へよりよいケアに繋げる取り組みに励んで来ました。まず環境整備については、中庭の整備をすることで、生活スペースの拡大を図りました。食事を楽しんだり、花火をしたり、プランターでお花を育てたり、くつろげる居場所の選択肢を増やすことができています。また中庭につながるスペースに畳の小上がりを設けました。足を伸ばして休むもよし、腰かけてお茶にするのもよし、外に出かけられない分、中でいかにくつろいで過ごせるか工夫しています。ケアの見直し・質の向上、職員の意識改革については、これまでの業務の見直しをしました。普段の業務がなぜこのようにしているのか、振り返りや自ら体験することで、違和感に気づき、常に考える癖を作ることの取り組みを行いました。また季節行事の枠を超えて、職員がやってみたいアイデアをドンドン実現しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事務所は、法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事務所、高齢者生活福祉センターなどの中にあつて、隣接して協力の紫波地域診療センターがあり、医療・介護の拠点地域に位置している。災害への防災意識が高く、水害、地震、火災の避難訓練などは、運営推進委員の参加協力のもとで実施している。かかりつけ医と訪問看護とも連携して看取りに取り組むとともに、管理者、職員が一丸となって、利用者の生活の質の向上、自立に向けた支援を行っている。コロナ禍のため外出に制限はあるが、ミニドライブを実施したり、施設長の「おたのしみ昼食会」を毎月開催したりと、地域密着型事業所を実践しながら、創意工夫を凝らした運営がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 4 年度

事業所名 : グループホームやすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めのやすらぎ会議にて、理念の確認をしています。それ以外にもやすらぎ会議の中で定期的に入居者様へのケアについて振り返りを行い(身体拘束廃止・認知症ケア)理念を実践につなげる努力をしています。 (理念の確認:令和4年5月やすらぎ会議) (ケアの振り返り(身体拘束廃止):令和4年5月8月)	理念は「ゆっくり、いっしょに、笑顔で」を職員会議で確認して介護の基本としている。職員が日常的にも目につくよう、ホールと事務室に理念を掲示している。特に入浴介助では理念の「ゆっくり」を活かした介助を実践している。コロナ禍による環境の変化に対応して、具体的な取り組みを盛り込んだ理念にバージョンアップしたいと管理者は構想している。	開設以来継続してきた理念であり、介護のバージョンアップを目指し、職員と環境の変化に合った具体的介護の在り方について、まずは話し合いを重ねることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてクリーン作戦に参加しています。また紫波まちピカ応援プログラムへの参加応募をしています。手続き完了次第、指定場所のゴミ拾いを行う予定です。近くの保育園の散歩コースにグループホーム前を追加していただき、散歩時には手を振ったり、ハロウィン等のイベントの際には屋外で交流もしています。 (クリーン作戦:令和4年4月3日、8月7日)	町内会に加入している。コロナ禍であるが地域の一員として4月と8月に町のクリーン作戦に、利用者は職員と一緒に参加しゴミ拾いを行っている。また、昨年からグループホームが近くの保育園児の散歩コースになり、利用者は手を振って挨拶し、ハロウィンには保育園児が玄関まで来て利用者とは交流している。コロナ禍前にあった町社協の傾聴ボランティアの訪問や認知症カフェは、現在は中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主体で「認知症なんでも相談」を月1回のペースで開催しており、3か月に1度の割合で相談窓口として対応しています。また行政が開催している認知症サポーター養成講座に参加し、次回講師を予定しております。 (なんでも相談:令和4年7月7日・10月13日(予定)、令和5年1月12日(予定)) (認知症サポーター養成講座:令和4年9月27日(講師予定))		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、実施状況の報告の他、アクシデント・ヒヤリハットの報告をしています。そこで推進委員からいただいた意見を日頃の業務に生かし実践しています。次回の運営推進会議で、その報告を行っています。 (令和4年6月の運営推進会議にて提案あり、7月身体拘束廃止への取り組み実施、8月の運営推進会議にて報告)	地域住民代表、行政区長、民生委員、長寿介護課、介護相談員、家族代表が参加し、今年度は4月から対面で会議を行っている。委員からは、避難訓練での注意事項やアドバイスがあり、また身体拘束廃止に関連して、40分間車椅子に座ったまま過ごしてみても職員がどのように感じるか体験してみてもとの提案を受けた。直ちに提案を実施し、その結果を元に職員の意識改革を図りながらサービスの向上につなげている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議において、日頃の報告を行い実情の報告の他、事業所の取り組みについて報告しアピールしています。	運営推進会議の委員に長寿社会課の職員と介護相談員が参加しており、運営状況や利用者の様子を理解していただき、連絡、報告はスムーズに行われている。疑問点や不明点などは直接指導を得ている。要介護認定申請は、直接窓口で代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やすらぎ会議の中で禁止行為や身体拘束による弊害について勉強会をしています。また職員が身体拘束の体験を行い、意見交換をしています。 (令和4年5月13日、8月19日)	身体拘束廃止の指針を策定し、身体拘束廃止委員会を2か月毎に開催し、ヒヤリハット事例も含め検討している。身体拘束しないケアを幅広くとらえ、職員の態度についても、利用者の立場になって考えている。夕食前の40分間、車いすに座ったまま過ごす体験を全職員が実施し、心の拘束についても話し合ったことで、その後の介護に対する姿勢や取り組みが変化してきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	やすらぎ会議の中で身体拘束と共に勉強会を行っています。虐待防止の意識を高め、業務の中での声掛けや対応について職員同士で声をかけあっています。今年度は10月に行う予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	やすらぎ会議の中で勉強会を行っています。今年度は10月に行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に一通りの説明を行い、その後の介護保険制度改定などの際にも説明を行っており、理解を得るように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ここ2年間はコロナの影響で、介護相談員などの外部者に直接話をする機会を確保できなくなったので、家族が来荘された際や電話の機会に意見や要望をお聞きしています。	運営推進会議に家族代表が参加し、要望や意見を確認している。参加していない家族にも面会時に聴き取るようにしている。利用者からの要望は、日常生活での会話に耳を傾け、把握するように努めている。数年前から利用者の希望で週刊誌を定期購読し、現在も続けている。	

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な機会はありませんが、日頃から意見などなんでも話しやすい職場環境を目指しています。人事考課で施設長と面談する機会もあり、その際には直接施設長に意見を伝えることもできています。	毎月の職員会議では、カンファレンスや勉強会のほか、提案、改善事項など何でも自由に話せる雰囲気がある。換気対策を兼ねてフロアから中庭に出れるようにしてはどの職員の提案があり、具体化したところ、利用者も新鮮な空気が吸えるように改善された。年1回施設長による個人面談では、業務全般及び私的なことも含めて話されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員の思いを聞き取るような体制作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響でしばらくは研修に参加できずにはいましたが、リモート研修が主体となって来てからは、勤務に影響のない範囲で職員が偏りなく参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響でしばらく他者との交流自体ができていない状況にありましたが、今年度はユニットリーダー研修に1名参加しており、研修で得たことを他職員に伝達し、日頃のケアに役立てています。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談でご本人の不安や要望を伺い、安心して入所していただけるよう環境などの体制を整え、センター方式を活用した職員間での情報共有に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談でご家族の不安や要望を伺い、安心して入所していただけるよう環境などの体制を整え、センター方式を活用した職員間での情報共有に努めています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	次の入所の候補になった際に、電話にて現状の状態と意向を再確認しています。その際に、グループホームへの入所が適切ではないと判断した場合は、担当のケアマネージャーを通してその旨報告しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者一人ひとりできることを把握し、ホールの掃除や洗濯物たたみ、食器拭きなど行っています。また人生の先輩として生活の知恵やアドバイスをいただき、暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来荘された際は、近況を報告したりガラス越しで面会をしています。毎月ご家族宛てにケア記録や写真付きの手書きのお手紙を送り、日々の様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が来荘された際は、近況を報告したりガラス越しで面会をしています。毎月ご家族宛てにケア記録や写真付きの手書きのお手紙を送り、日々の様子をお伝えしています。	コロナ禍であるが家族の面会はガラス越しで面会できるようにしている。また、毎月家族あてに手紙を送りホームでの生活を伝えている。年賀状も職員と利用者が一緒に作成している。これまでの馴染みの場所である、利用者の実家や田んぼ、山等の周辺をドライブにでかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の会話などから気の合う方同士が近くに座れるよう配慮しています。会話が難しい際には職員が間に入ることも多いです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから同一法人の特養などへ入所した方が1名あり、必要に応じて感染対策を講じた上で面会に行くこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規入所の際には、センター方式を用いて一人ひとりの思いを職員間で共有し把握するようにしてケアに取り入れています。定期的なカンファレンスの際にも、事前に担当職員が本人家族に意向を確認し、カンファレンスの際に職員間で周知しています。 (カンファレンス:3か月に1回)	アセスメントは利用者の希望や意向を確認できるよう、センター方式を用いて職員が分担して細かく情報を確認している。言葉では伝えられない方も、思いを汲み取れるよう、家族に意向を確認している。3か月に1回カンファレンス開催し、その席でも利用者の希望や意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入所の際には、センター方式を用いて一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを職員間で共有し把握するようにしてケアに取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りに限らず、職員間の会話の中で、入居者の状態について常に話題としており、1日の過ごし方や心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの定期的なカンファレンスの他、状態が変化した時等必要時には随時カンファレンスを開催することで適切な介護計画を作成しています。	介護計画は3か月毎に見直し、計画担当者が介護計画を作成している。職員会議でも随時のカンファレンスを行ない、状態の変化に合わせて弾力的に作成している。介護計画の変更については、利用者と家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の声掛けや反応、返答などもケア記録に記録し、やすらぎ会議や申し送りの中で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新規の訪問診療の導入、訪問マッサージ、訪問フットケアの導入もすることで、ニーズに応じた柔軟で多様性のあるサービスの導入を心がけています。		

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のクリーン作戦に定期的に参加し、地域の一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在2医院の訪問診療と、町内の医院1に通院しております。入居前からの主治医を継続することを基本としながらも、状態変化に応じて本人家族と相談の上、往診に切り替える対応もすることで、適切な医療が継続して受けられるよう支援しています。	入居前のかかりつけ医を継続している方は1名で、8名は訪問診療を受診している。かかりつけ医や皮膚科等の通院には職員が付き添い、その都度家族にも結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による定期的な健康チェックが週1回、その他、随時異変や変化などの際には早期報告し必要に応じ受診に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の時点から、退院にむけて病院関係者や家族と連携しながら、できるだけ早期にグループホームに退院できるか判断しながら、適切な住まいに戻れるように連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応も行っているため、早い段階から主治医と本人家族と意向を確認しながら、意向にそった支援を行っています。実際に看取りの段階に入った際には、主治医や訪問看護、チームで支援し本人家族を支えています。 (看取り後は、カンファレンスを行い、職員のメンタルケアに努めつつ、振り返りを行うことで新たな課題の有無を確認し今後のケアにつなげる取り組みを行っています。)	看取り指針を作成し、入居時に本人、家族の意向を確認している。最近では2名の方の看取りを行ったほか、現在も2名の方を看取りの方向で支援している。主治医や訪問看護等のチームで連携し、利用者や家族を支えている。看取りの後にはカンファレンスを開催し、振り返りを行い職員が様々な思いに気づくことで、その後のケアに繋がっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時持ち出し用ファイルを作成しており、急変時や事故発生時の持出用リストの一つとしている。年3回避難訓練を行って確認しています。急変時の対応についても、やすらぎ会議の中で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行い、備蓄の確認もあわせて行っています。全職員が習得できるように定期的に開催しています。 (令和4年5月25日、8月26日)	年3回、運営推進会議委員の協力を得て、水害、地震、火災の避難訓練を行っている。今年度は水害訓練を5月、地震想定を8月に実施している。11月には夜間火災想定訓練を行う予定にしている。コロナ禍前は法人全体の訓練に参加していたが、現在は各事業所で行っている。	夜間想定訓練では、避難通路の支障物、照明などの明るさをチェックし、安全避難に支障のない体制を整える契機になることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを意識しながら接するように意識しています。特に排泄時や入浴時等のケアの場面では周囲への配慮を怠らずプライバシーの確保に努めています。	トイレ誘導時は、ささやきサインで、そっと見守りしている。失禁したときは周囲に気づかれないよう配慮している。入浴時も同様に羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、食べたい物、行きたい場所、過ごし方、着たい衣服、飲み物、各場面において自己決定ができるようにその支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調はもちろんその日の気分により、その日その時どのように過ごしたいかをその都度意向を確認し、できるだけ希望に沿った過ごし方ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナで買い物に行くことができないので、お店の承諾を得て商品をカメラにおさめ、それから選択していただき代理で購入しています。着替えの際にもご自分が着る洋服を選択できるように支援しています。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホームやすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	記念日やイベント時に入居者の希望にそった献立と一緒に作成したり、調理から後片付けまで、個々の得意とする分野を生かしながら職員と共に取り組んでいます。 (お正月:おせち料理、お盆:お赤飯・お煮しめ) (土用の丑の日:うなぎ丼 その他リクエストでハンバーガーやピザなどのジャンキーフードも)	職員が献立を作成し、買い物に出かけている。利用者の食べたいものを把握し、調理している。利用者は食器洗い、味見係り、下膳、テーブル拭きなど、一人一人の力を活かしながら、一緒に行っている。毎月、利用者が楽しみにしている、施設長が調理する「お楽しみ昼食会」では、手打ちうどん、チキンカレー、ピザなどを提供している。他にも誕生会や行事食もあるが、12月には事業所の22周年記念でわんこそば大会を開催する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調に応じて食事形態を工夫変更しながら、適切な量が摂取できるように支援しています。水分チェック表をみんなが見れるようにしており、その都度状態にあわせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科による治療や口腔内の確認をしていただき、医師の指導のもと日々のケアをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に水分量と共に記載し、個々の排泄パターンの把握に努めています。それによりリハビリパンツ使用から布パンツ使用へ変更した入居者も2名おります。定時誘導ではなく、排泄パターンにあわせた声掛けや誘導を実施しています。	排泄チェック表により、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。自立してトイレに行ける方は3名で、6名は個々のパターンを把握して付き添い介助している。自立に向けて取り組んでおり、現在は3名がリハビリパンツから布パンツになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表の記載により、排泄と共に水分量の確認ができるように対応していますし、適宜運動を取り入れて腸活への取り組みも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴しています。午前午後と決めずに、その日いつ入りたいかを自己選択できるように支援しています。個人の都合や希望により柔軟な対応ができるようにしています。 (個別で入浴用品を使用しています。)	週3回を基本としているが、一人一人の希望に合わせて無理をせず、ゆっくり入れるよう時間は決めずに支援している。着替えも自分で選ぶようにしている。風呂場の壁には富士山の写真と「いい湯だな」の歌詞カードを貼り、職員と歌いながら楽しんでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方も考慮し、グループホームの日課にそって過ごしていただくのではなく、個人の希望や意向に沿って随時休息したり、夜間も安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変更になった場合は、薬剤師から副作用や注意すべき点を確認し職員全員が周知できるように、申し送りの徹底と、いつでもすぐに確認できるように個別ファイルに保管しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、できることや趣味など日課に取り入れています。体調や気分などにも考慮しながら散歩やドライブにお誘いし気分転換の支援もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で家族や地域の人々と出かけることはできませんが、職員の対応で小グループにわけてドライブに行く機会を設けています。 (令和4年4月22日 お花見ドライブ(6名参加)) (令和4年5月 産直ドライブ(4名参加)) (令和4年8月 田んぼアート見学ツアー(4名参加)、紫波町クリーン作戦(4名参加))	天気の良い日は、全員で施設周辺に散歩に出るようにし、また1日1回は外気浴を行うようにしている。近隣の保育園とも協力し、園児が散歩に来たときは玄関やベンチから手を振り、利用者が園児の顔を見れるようにしている。利用者と担当職員がそれぞれにミニドライブの場所を相談し、ひまわり畑や紅葉を見物に行っており、その際には看取りの方も楽しんで参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に金銭管理について状況や意向を確認し、少額程度のお小遣いを保管しています。コロナの影響で買い物に出かけたり、訪問販売も休止しているので、お金を使う場面がほぼありません。現状はお小遣いを職員が管理して代理で買い物・お支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年までは携帯電話を所持している入居者もいましたが、現在は家族や知人に連絡を取りたいという入居者はいません。ですが年に1度年賀状を出す支援は継続しています。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホームやすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた空調や照明、掲示物を心掛け観葉植物の他、施設の庭にあるお花を飾り四季を感じられる工夫をしています。またお茶コーナーを作り自由に好きな時間に好きな飲み物を飲めるようにしています。 (お茶コーナー、植物展示、カーテンの飾り付け)	広いホールには、天窓から柔らかい日差しが差し込んでいる。ソファや食卓、椅子、テレビ等が配置され、畳のスペースもある。観葉植物が置かれ、ゆっくりとした時間が流れている。午前には軽体操や外気浴で過ごし、午後には輪投げや風船バレーのゲームなどで楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には車椅子でもシルバーカーでも自由に自走し移動できるように間隔をあけてソファなどの家具を配置し、テレビも食卓と休みどころにあり、自由にチャンネルを変えてくつろいで過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には今まで使用していた馴染のある家具やラジオ、小物などを持ち込み、落ち着いて過ごせるようにしています。	居室にはベッド、クローゼット、エアコンが備え付けられている。テレビや使い慣れた家具、家族写真などを持ち込んでいる。配置もその都度、利用者や家族の要望で変えており、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭またはそれに続く屋内に選択干し場を設置し、各自洗濯物を干したり取り込んだりがスムーズにできるようにしています。トイレやお風呂に福祉用具を取り入れ、自立した生活が送れるよう工夫しています。		